

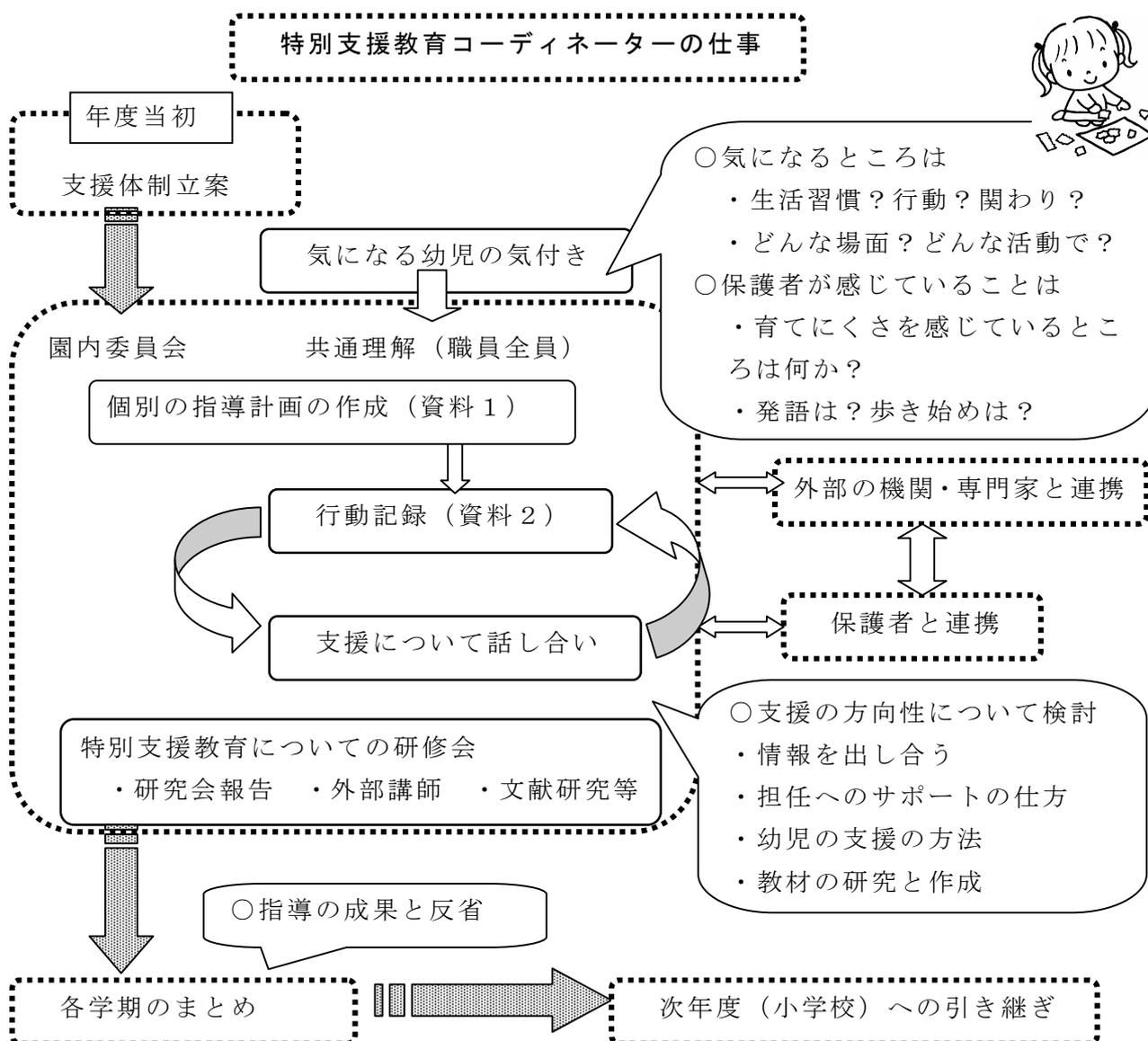
## 幼児への支援を中心とした

### 特別支援教育コーディネーターの取組

本園は4歳児3クラス、5歳児3クラスの編制である。入園時の幼児はそれまでの家庭での養育等による家庭環境や個人の発達の課題等により個人差が大きい。集団生活を過ごす中で、個々に行って課題が少しずつ改善されていく場合もあるが、発達障害による課題と考えられるケースもあり、保護者の認識がないこともある。その際、保護者への理解が得られず専門機関と対応が取りにくいこともあり、課題となっている。

ここでは、園内での幼児への支援を中心にその一端を挙げていく。

#### 1 特別支援教育コーディネーターの役割



## 2 個別の指導計画・行動記録

### 資料1 個別の指導計画

平成19年度 個別の指導計画( 学期)				平成 年 月 日作成( )			
好きなことやキャラクター・得意技							
苦戦していること							
諸検査等							
名前	男 女			平成 年 月	生まれ 歳	歳児 組	
園での様子							
情報整理	行動面	作業面	情緒面	社会面	基本的な生活習慣	その他・健康面	
	意欲・言語の理解等	手先の器用さ等	ストレス対処スタイル	対人関係・集団参加	衣服の着脱・排便・食事・身の回りの片付け等	健康状況・身体的特徴・栄養・偏食状況	
いいところ	資料2 行動記録						
気になるところ	◎行動記録		名前				No.( )
	○△	日時・場所	事案	事案背景	対処	対処の結果	備考・気付き等
指導目標	どのような背景の時にどのような行動が起こるのかを記録することにより、次回に同様のケースが起こった場合に事前に対処できるようにする。			対処が効果的であったか、また、その幼児に合った対処の仕方の傾向等を探る。			
具体的手立て	教師の対処の仕方が効果的であった場合は○、さらなる工夫が必要な場合は△を記入する。			行動記録を基に、その幼児への支援の仕方について共通理解をする。			
(変容と課題・手立ての有効性)	指導の評価						

### 3 支援に利用した教材

#### 言葉による理解を促す視覚的教材

特に幼児は発達障害のあるなしにかかわらず、視覚的な教材を利用することにより話を聞く時集中することができたり、理解しやすくなったりする。

必要に応じて、その場で絵を描きながら知らせるようにしている。

#### 登園後の持ち物の始末についての図



登園後の持ち物の始末が絵を見て確認しながら行えるようにする。



帽子の片付けができたね。次は何を片付けたらいいかな？

#### 一日の流れを示した図



一日の生活の流れをクラスで確認し、絵にして黒板に表示する。

#### 活動の流れを示した図

たいそう

かけっこ

りずむ

たまいれ

ふーぷ

付箋に活動名を記入し、メモ用紙に順番に貼ったものを必要に応じて、個別に持たせて知らせる。  
(運動会の日の例)

今、リズムが終わったね。次は、玉入れだね。



#### かかわり方を知らせる絵



友達が使っている物を無理矢理取り、トラブルとなる幼児に「貸して」という言葉を使うことを知らせるために、その場で描いて知らせる。

「お友達をたたいたら『痛い』って泣いてるよ。『貸して』って言ったらいいね。一緒に言ってみようね。」

## 4 小学校への引き継ぎ資料

## 資料3 個人プロフィール・小学校への連絡事項（記入例）

〇〇幼稚園

## 個人プロフィール

ふりがな 名前	〇 〇 〇 〇	性別	男 女
		生年月日	平成 〇年 〇月 〇日生
手帳の有無	有 ( )	無	
障害名 (診断名)	(有)・無・疑 ADHD	障害の状態	・不注意
生育歴 ・発語 ・始歩 ・指さし	3100g 異常・(正常分娩) 発語：1歳 始歩：10か月 お座り：6か月 首の据わり：4か月	発育歴	平成17年：A保育園入園 平成19年：B幼稚園入園 平成21年：C小学校入学予定
既往歴 ・疾患名 ・主治医 ・けいれん ・発作 ・服薬等		相談歴	3歳7か月：D医療センター（E幼稚園を薦められる） 4歳2か月：児童福祉センター 4歳4か月：F小児科（医師）1学期に1回検診する リタリンの処方
諸検査の記録(別紙参照) 5歳0ヶ月：WISC-Ⅲ（言語性IQ77・動作性IQ104・全検査89）			

## 小学校への連絡事項

記録者( )

就学希望： 通常の学級・特別支援学級・通級指導教室( )・その他( )
1. 児童の実態(配慮事項と主体的な行動・興味関心)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉の理解力に遅れがある（2歳位）ため、集団の中で話を聞いたり理解したりすることは苦手である。個別に分かりやすい言葉で伝える必要がある。</li> <li>・身の回りのこと（持ち物の片付け・弁当の準備・衣服の着脱等）をゆっくりでも自分でやろうとする。</li> <li>・ブロック遊び・絵を描くこと等、のびのびと集中して行うことができる。</li> </ul>
2. 気になる行動(暴力・多動・パニック等)とその背景(5W1H)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・遊びをやめて、次の活動（弁当を食べる等）に移るときに気持の切り替えができにくく、大声で泣くことがある。</li> <li>・自分が使いたい物が使えないと（ブロック等）、無理矢理とったり手を出したりすることがある。</li> </ul>
3. 現在行っている具体的な支援(効果的な支援と注意事項)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・次の活動に移る前にメモ用紙にその場で絵を描いて知らせると関心もち、話をよく聞くことができる。</li> <li>・パニックになると人の言葉は耳に入らなくなるので、他のことに関心を持たせたり絵カードを持たせたりする。</li> </ul>
4. 就学後の継続してほしい支援(申し送り事項・要望)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・カードを使用するなど、視覚的な方法を用いると理解しやすい。</li> <li>・初めての場所・経験に不安をもつので、事前に予告をすると安心する。</li> </ul>
5. 学級編制に関する情報(支えてくれる子ども・保護者の意向)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・A君に親しみをもち、言うことをよく聞く。</li> <li>・B君と折り合いが悪く、衝突することが多い。</li> <li>・B君にけんかでけがをさせたという理由での母親同士がトラブルになったことがある。</li> </ul>

